

航空知識



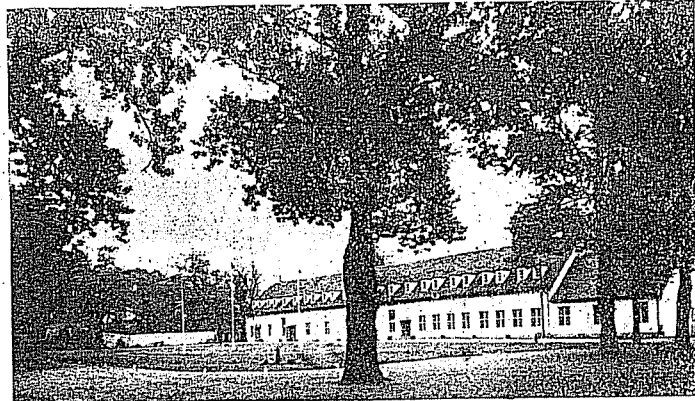
滞 歐 雜 記 帳 (その十三)

工 學 士 山 本 峰 雄⁽¹⁾

10. トレピン滑翔飛行學校

伯林の夏も白服を肌涼しく着る事数回で慌しく過去つて行き8月の半ばともなればリンデンの葉も忽ち艶を失つて行つた。私の見學のプログラムは伯林駐在の各方面の盡力に依つて順調に進み愈々忙しくなつて行つた。此の爲に有名なワツサークツペの滑翔競技も遂に訪れる機会を失つてしま

つたので、せめて滑翔飛行學校とグライダー製作學校其他のナチス黨飛行隊(NSFK)の航空教育施設だけは見て置く積りでNSFK第4管區ブランデンブルグの本部にトレピ



第1圖 トレピン滑翔飛行學校の本部

ンの滑翔飛行學校の見學を依頼して置いた。

トレピンの飛行學校からワツサークツペの競技に参加した滑翔機と滑翔飛行士が歸つて来るのを待つて8月15日に見學に出掛ける事に打合せた。車の前方にNS-Fliegerkorpsと白書された車に迎へられて下宿を出たのは午後1時であつた。同行は獨逸労働戦線のH女史とNSFK分團長W氏と友人である。

伯林の町を南に下つて馴染の深いテルトウの緑の原野を下つて伯林の南環状線の自動車道路に差

(1) 航空研究所

しかつた。何時も乍ら自動車道路は坦々たる白い路面を縁に圍まれて輝いて居るのであらうと思つて跨線橋の上から下を見下すと同時に私ははつとしたのである。其處には白い自動車道路の上に灰綠色にカムフラージュされた獨逸の自動車化部隊が蜿蜒として東を指して行進して居るのである。我々が通る跨線橋の下は速射砲の部隊であつて陽

焼けた兵士が戦闘帽を被つて悠然として配置について居る。オートバイ部隊は録兜姿で銃を肩に爆音を青空に響かせて連絡と護衛に走つて居る。跨線橋の兩端は自動車道路警察隊がオートバイと自轉車で

警戒して居る。

遂に来るべきものが近い内にやつて来るなど云ふのが我々の直感であつた。チェコ併合の際も自動車道路は機械化部隊の輸送路となつて東に南に陸續として部隊が運搬された。ライプツビのメツセに行く途中に此の機械化部隊にあつて其の數の龐大なのに驚いて来た人も居る。我々は自動車道路に機械化部隊が動けば何かあるものと決めて居た。

2週間位前からポーランド問題がやかましくなつて来て、ポーランド内に居住する獨逸人が殺害

されたとか或は暴行されたとか色々問題が新聞を賑はす様になつて来て居た。

此の機械化部隊がポーランドの平野を疾駆する時は何時であらうか。此の時に英國が起つてば國境は全面的に閉鎖されて了ふであらう。伊太利に抜けても地中海は通れなくなるし只日本に通ずる道はシベリヤ鐵道のみとなるのである。豫ねて考へて居た様に荷物の大部分を数日前にハンブルグ入港の靖國丸に積込んで了つ

てよい事をしたと此の時始めて思つたのである。

同乗のH女史は見るべからざるものを見た様に一瞬沈痛な色を老顔に漂はし、橋の下を餘りのぞき込まないやうに制しながら跨線橋を通つて了つ

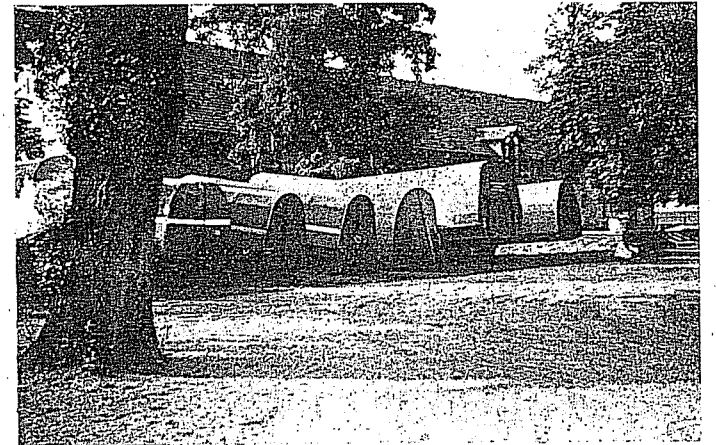


第3圖 國民自動車に曳行される格納曳行車

た。NSFKのマークをつけた自動車でなければ此處で一應止められたらう。

行手にはテルトウの緑よりも更に新鮮な緑の原野が夏雲の下に擴がつて大自然は何事もない様に静まり返つて居た。

やがてトレピンの町の郊外を廻つて廣々とした砂地が一望の彼方迄廣がつて居る原野に出た。左手には淡褐色の丘陵が二つ波状をなして連つて居る。丘陵の裾を廻つて再び開けた砂原に出ると其處にNSFKブランデンブルグ管區の滑翔飛行學校の校舎が現れた。本部建物は古い建築物を利用したらしく苔むした煉瓦建であつて前庭を隔て、大木の下に滑



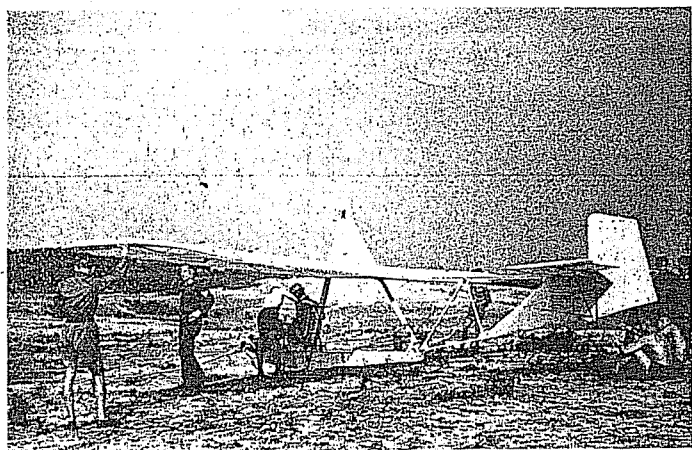
第2圖 グライダー格納庫 (著者)

翔機の格納曳行車が10臺近く並べられて居る。ワツサークツペの大會から歸つて来たのであらう。本部の左側は工場になつて居て木工機械と工具がならべられ、其の前面では滑翔機の修理をやつて居る。此の門を通抜けて飛行場の格納庫に車を停める。

格納庫のエーパンの上は午前中の雨で濡れて居る。低い雨雲が飛行場を覆つて居る。格納庫の中にはハビヒト其他の高性能機を始めおなじみのグルナウ・ベイビー、オリンピック競技用滑翔機マイゼ等が10臺許り格納され、飛行場にはNSFK型

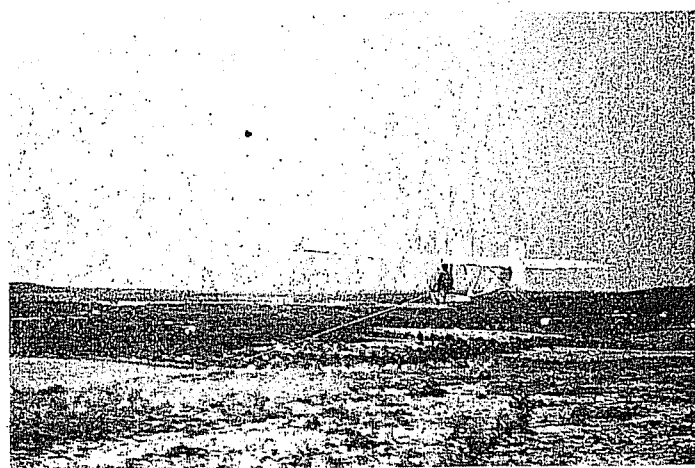


第4圖 中級練習生の集合 (著者)



第5回 プライマリーの出発準備 (著者)

プライマリーや各種のセカンダリー—それに曳航用飛行機が置かれて居る。ルフトハンザの操縦士であつたと云ふW氏はどう見ても日本人である。背は私より幾分低く、がつしりした肩巾を持ち、顔は陽焼けして人のよささうな印象を受ける。特に顔面に深い凹みがなくて唇の厚いのは日本人的印象を興へる。彼は私達に通りの説明をして呉れる。此の學校は約75人の生徒を收容する設備を持つてゐるが、現在は150人の生徒を收容して空軍豫備教育を行つて居るのである。然もその中には32人の曲技滑翔飛行の出来るものが入つて



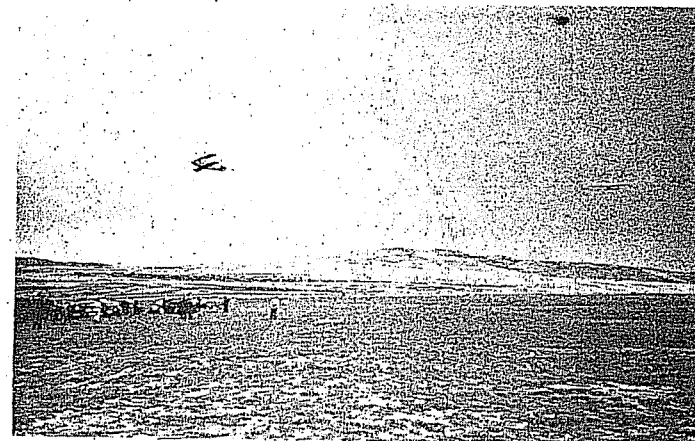
第6回 プライマリーの出発 (著者)

居る。此の曲技飛行を見せる爲に1週間許り待つて貰つたのであると云ふことであつた。W氏の説明を聞いて居る内に國民自動車格納庫が格納庫を曳いてワツサークツベから到着した。未だ一般に配給されて居ない國民自動車は實は此んな所に配られて耐久性の試験をされて居るのである。引いて來た格納庫は直ちに格納庫の中に引入られて中に入つて居たヒュツター28型滑翔機の機體の點檢が始まつた。格納庫は熔接鋼管構造で覆は床と離れてすつかり取脱せる構造を持つて居る。格納庫の床には主翼前縁の木製受臺が左右に取付けられ、中央には胴體の受けが作られて居る。格納庫の車輪は中央に一對だけ取付けられ、之が捩れ棒式の緩衝装置で支持されて居る。滑翔機の機體は翼巾13.3米、主翼面積10平方米、全重量200匁と云ふ小さなものである。機體の表面仕上は極めて滑かで、其の構造設計も巧妙である。機體、格納庫、國民自動車共價格5000馬克に過ぎないと云ふことであつた。國民自動車の價格が990馬克であるから、機體と格納庫と合せて僅かに4010馬克である。20分許り精巧なヒュツター28型の點檢作業を見て居ると午後2時半からの滑翔訓練のために練習生が格納庫前に整列を始めた。白い作業衣を被た練習生は何れも食後の休憩の後で潑刺として居る。指導者から訓練の課目を言渡され注意を聞いてから列を作つて飛行場に向つて行つた。我々も彼等の練習を見るべく自動車で彼等の後を追つた。飛行場の右側に

は新しい本部を建設中である。雲に次第に切れて來て飛行場の左端に伸びて居る淡褐色の丘陵の頂きに陽光がさし始めた。飛行場の草原には名も知れぬ花が弱々しく咲き亂れ其の花の中で一塊の人々が群れて何事かが進行して居る。近寄つて見るとワーファ—映畫會社の撮影班である。女學生に扮した數人の女優が中心に集つて居る。トレビン滑翔飛行場の黒い森を背景に正に始まる滑翔飛行の練習を取入れてクランクが廻されるのである。練習生や空軍の兵士も集つて居る。之も近頃獨逸で盛んに作られて居る航空映畫の一場面であらう。

我々の自動車が飛行場の左縁から丘陵の凹凸道に上つて行く頃には伯林からわざわざ我々を案内する爲にやつて來たブランデンブルグ管區長K氏の車とトレビン飛行學校長の車が我々を追つて來て居た。

丘陵の上では既にプライマリーの滑空訓練が開始されて居た。2臺のプライマリーに黒いヘルメットを被り半ズボンをはいた少年が代る代る乗つて空に浮上つて居る。索を離れたプライマリーは斜面上昇風に乗つて少しの間空中に浮遊し、やがて傾面に沿つて下り遙か下方の谷合に接地した。丘の上からは遙かに地平線迄マルク地方の砂地の平原と森林が連なつてプライマリーに乗る少年達の未來の夢をそよぶ様であつた。接地した飛行機が再び丘の頂に運ばれる頃には第二のプライマリーは既に發航の準備を終つて居た。黙々として然し整然として、休みなく練習が續け

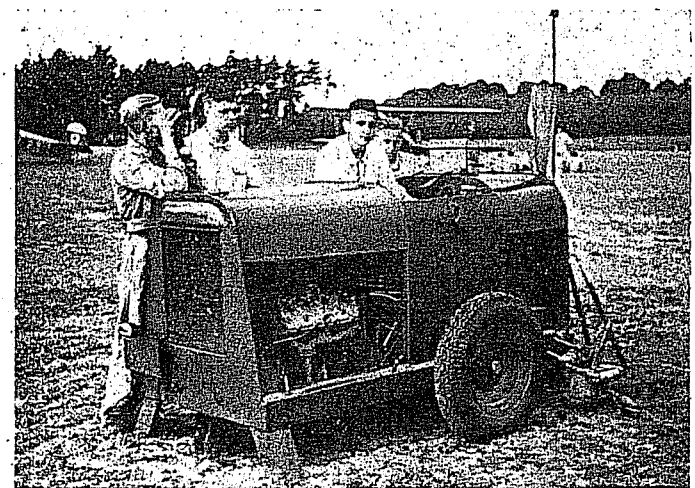


第7回 飛行場に曳航されて出發するソアラ—、前面はプライマリー練習用の丘陵ゲレンデ (著者)

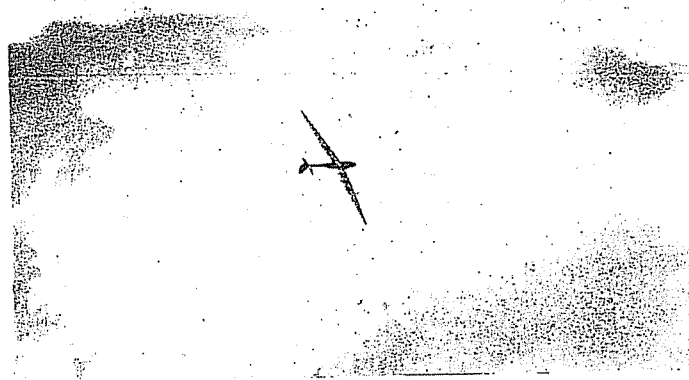
られて行く。然かも少しも形式的な動きが見えない。自然の儘に規律が出來て居る。

谷の向ふ側には更に第二の丘陵ゲレンデがあつて此處でもプライマリーの訓練が行はれて居るのが遙かに小さく見える。

管區長K氏は長身白皙典型的の獨逸人である。氏は餘程日本に好意を持つて居るらしく丘陵を吹上げる風の中で盛んに日本のグライダー界の話を聞き、日本の航空雑誌を見て日本のグライダー界及航空界の事を知りたいと云ふのである。校長は生徒の訓練が氣に掛るらしく熱心に瞳をすえて練



第8回 レーン風曳航ウインチ (著者)



第9回 ソアラの快翔 (著者)

習に見入つて居る。

やがて下の飛行場では中級及高等の訓練が始まったので話を切揚げて丘を下る。飛行場の中央では飛行機に曳航されたソアラが次々に飛上つてウーファアの撮影班の上を通つて雲の下を上昇して行く。飛行機から離れたソアラはあらゆる曲技飛行の練習をやり乍らやがて高度を失ひ丘陵の麓に広がる草原に夏草を靡かせて接地する。数臺のソアラが常に空中に浮んで居る壯観である。

飛行場の中央ではセカンダリーのウインチ捲揚げが始まつて居る。自動車のウインチの外にレー



第10回 案内役のNSFKの人々 (著者)

ン型滑翔機曳航ウインチが活躍して居る。4人のヒットラー青年團が此の機械を操作して居る。90馬力のフォードV-8型エンジンを装備した此のウインチはアウト・ファイファー会社製で、自動車で曳行出来る様になつて居る。索の捲取り速度は最小 18.4 斤/時、最大 88 斤/時であつて、捲取り速度計、冷却水温度計、油圧計が取付けられて居る。索の捲取りはドラムの上に一様に行はれる様に索分配装

置があり又索の非常切斷装置が装備されて居る。此のウインチはトレビン滑翔飛行學校の技術實驗部で既に1年以上使用して相當の好成績を収めて居るが更に他の会社にも曳航ウインチの試作を命じて居る由であつた。

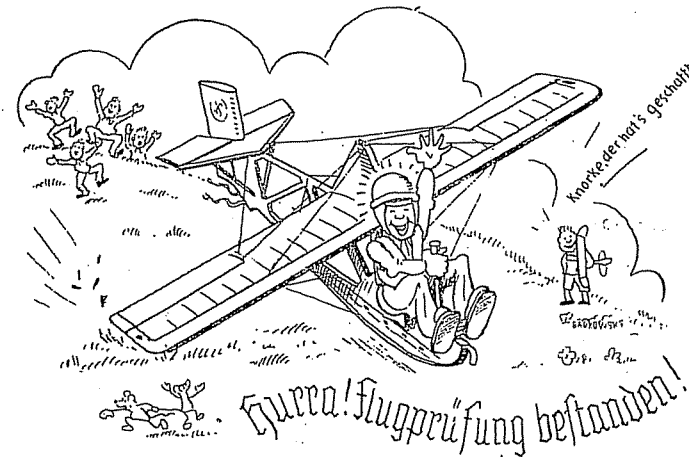
飛行場の上空はソアラとセカンダリーが上下に入亂れて飛び、曳航飛行機の爆音とウインチの躁音が交互に起つて来る。NSFKの17箇の管區には必ず滑翔飛行學校があつて毎日此の様な盛んな練習が行はれ、又此の外に国立滑翔飛行學校や国立滑翔スポーツ飛行學校があり、曲技及曳航飛行學校がある。更にどんな小さな村落にも分團練習場があつて、其處でもヒットラー青年團員が訓練を受けて居るのである。全獨逸の労働訓練場は2000を越え、ヒットラー青年團員で空軍豫備教育として、滑翔飛行訓練を受けて居るものは65,000人に達して居る。眞に獨逸は滑翔飛行の國であると言つても差支へない。國際滑翔飛行研究聯盟(Istus)の制定した銀メダルを持つて居るものは1940年

に1634人であるが、此の内75パーセントは獨逸人であるし、金メダルを有する者38人の内20人は獨逸人である。

滑翔訓練の見學を終へて本部に戻ると此處では屋外で當番の練習生が馬鈴薯の皮を剥いて夕食の支度を手傳つて居た。本部の地階は事務室、醫療室、社交室、賣店、食堂等がある。社交室にはラジオや樂器が備へられて居て一日の滑翔訓練に疲れた心身を夕食後の團樂に依つて癒すのである。

引續いて2階に案内して貰ふと此處は練習生の宿舍であつて2段の寢臺が並べられて居る。軍隊に行つても労働者の宿泊所に行つても見られる白地に青い筋の入つた荒い市松模様の掛布圍がきちんと寢臺の上に並んで居る。

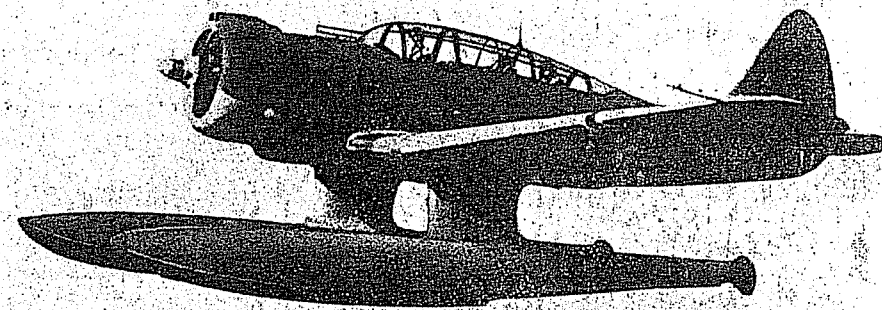
本部を出て工場に入り滑翔機の修理作業を見、更に物置等をのぞく。之等の建物は由緒ある農家の納屋であつたらしく庭前の大木の繁みに薄暗く



第11回 団樂の繪葉書

濡つて居て獨逸の田園生活の味が出て居る。食堂で一休みして漫畫の繪葉書等を買求めて前庭に出る。

夕陽を浴びた飛行場は所々淡褐色の砂地を露出して輝き、熱上昇風の多いゲレンデである事を思はせて居る。我々の自動車は夕陽を側面に受け乍ら丘陵の裾を廻りマルクの平原の中の砂道を辿つて伯林への歸途を急いだ。



ノースロップN3-PB型哨戒爆撃機(米國) —27頁参照—